

白城会通信



日 次

創立九〇周年記念式典風景

ご挨拶……………1

九十周年記念式典ご報告……………2

母校教員の異動……………3

高野にて（俳句）……………3

姫路西高を去るに際して……………4

アメリカ留学における一考察……………5

アフリカの生活と現地語……………9

備前焼と私……………12

私の考え方……………15

二十一回生の進学状況……………16

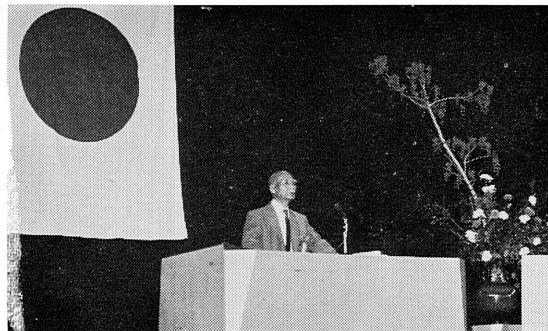
先輩から後輩がやめ……………18

90周年記念式典風景

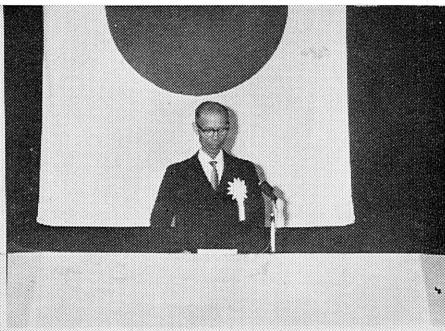


祝賀会 白城会館

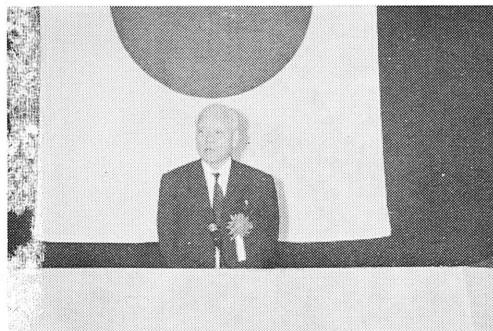
受付 玄関前



祝辞 栗田先生



式辞 校長



記念講演 団野信夫氏



式場 体育馆

ご挨拶



理事長 空地一（姫中24回）

校友諸兄にはますます健勝大慶の至りに存ります。

私ごとで甚だ恐れ入りますが、今春はからずも叙勲の恩命に浴しましたる節には早速皆様よりご鄭重なるご祝詞を賜わりありがたく存じました。厚くお礼を申し上げます。今後も健康の許す限り私の職を通じて社会奉仕に専念いたしたき覚悟にございますれば、何卒よろしくご鞭撻のほど願い上げます。

さて、お待ちかねの白城会通信第六号がよいよ発刊の運びと相成りました。ご覧のとおり関係各位のお骨折りと校友諸兄の積極的

なご協力により年ごとに内容も充実してまいりつつあります。前号で私は創立九十周年記念式典の成功をお祈りいたしましたのに、肝心の日に要用のため出席相叶わず残念至極に存じました。しかし当日は大勢の皆様方がご参集下され、友情溢るる中にいつも盛大にア

ログラムが進行し、かつ、老いも若きも打ちとけて懐旧談に花が咲いたと承り、いつもながらうれしい話と感服いたしました。本年は四百五十五名の新会員を迎えたが、その多くはあつぱれ進学の望みを達し、先輩も例によつて国内外至るところに雄飛され、母校の名譽を揚げていて下さるし、在校生諸君もまた青春再び来たらずと、すこぶる張り切つて勉学に余念なき様子を見ると、特に時節柄

心強き思いをいたします。白城会館は相変わらずの人気あり、諸兄のご来館を心からお待ちしております。

どうかここだけはいつまでも楽しい話し合いの広場として大切に保存いたしたいものですね。別項のとおり八月十七日には本年度総会が開催されます。奮ってご来会下さい。

入会にあたつて

二十一回生 杉本和行



大学へ入った後、新しい友人ができると必ず聞かれることがあります。「君はどこ出身ですか?」「僕は姫路西です。」こう答えるとき、僕は、自分というものが、自己の青春の初期を費した、この姫路西高校という有機体に固く結びつけられてしまっていることが、否定できない事実であることをはっきりと感じます。しかし、僕は西高を卒業した結果、必然的に入会することになった白城会というものに、以前同じ学校で学んだ者が、何の確固とした目的もなしに集まる懷古的な閉鎖的な集団を期待しません。僕は、やはり現在という時点を生きる者として、年齢差をのりこえた、眞の対話の存在する組織としての、建設的な意義を白城会に期待し、また、自ら作つていくべきだと思います。先輩の方々よろしくお願ひいたします。



九十周年記念式典ご報告

学校長 林 義一

昨年十月十九日に挙行しました本校創立九十年周年記念式典は、白城会からの物心両面にわたる絶大なるご援助により、お陰でささやかながらも意義ある催しとなりました。誌上をかりまして、ここに厚くお礼を申し上げます。

当日は天候にも恵まれ、松井教育次長をはじめとし、多数の来賓、栗田肅夫先生以下白

城会員の方々のご臨席を辱うし、また、飯野竹二郎先生、賀集音市先生、竹浪友治郎先生、小島正敏先生、井内壽久次先生、柴垣武夫先生、その他旧職員の方々のご参列をいただき厳粛の中にも暖かい人間同士のつながりに結ばれ、和氣全式場に満ちて、式典を終えることができました。そして式後の祝賀会も簡単なものではありましたが、これまた育友会の役員方がご夫妻揃って接待につとめて下さって、教育委員会の提唱される「学校・家庭・社会、三つのコンビ一つの広場」の一縮図と

もみられるような、なごやかな、うれしい集いとなりました。

なお式典におきましては、白城会代表として栗田先生の祝辭をいたしました。先生はかくしゃくたる態度で、お声もさわやかに、会員の方々に特に深い感銘を与えられました。

また開式にさきだつての団野信夫氏（姫中三十七回卒）の記念講演は、ご経験にもとづいたもので、平易な中でいろいろ教えられることが多いお話で、生徒は改めて「先輩」を認識しえたことと存じます。

それから、この機会に記念誌を編集したい

と思いましたが、日時の関係上、不可能でありましたので、写真を集め、読む歴史でなく目で見る歴史という意味で「九十年の歩み」という写真集を作りました。このほかに杉全直氏（姫中四十三回卒）がこの日のため心をこめて製作して下さった「きっとこう」と題す

る見事な絵画を複製し、また産経新聞に連載された記事を竹内英氏（姫中三十一回）がまとめて下さった「先輩後輩」という本校九年の人的歴史を集録した小冊子と、応援歌「鷺山に秋」姫中校歌「呼べよ天下」西高校歌「友にあたう」を吹き込んだレコードなどを当日の記念品といたしました。いずれも会員の方々の暖かいご奉仕によるものであります、重ねて感謝の意を表する次第でござります。しかし、ここでお詫びしなければならないのは、ご案内が行き届かなかつたことで日時、費用の点もありましたが、なにとぞご寛容のほど、お願ひいたします。

最後にあたりまして、私は母校に職を奉ずる幸せと責任を深く感じ、この式典を挙行しえた光栄に思いをいたすとともに、本校がさらに新しい世代にふさわしい発展をとげるよう渾身の努力を払いたいと心に誓っております。そして、やがて來たるべき百周年には、いつそう輝かしい記念式典がもたれるよう期待し、その一步という気持で微力を尽くしております。なにとぞ会員の方々には相変わらず、せぬご支援を賜りますようお願いいたします。

母校教員の異動（四四、四）

離任された先生

来任された先生

お名前	教科	年在勤	ご転出先
名倉二郎	生物	23	福崎高校
真下恭	音楽	20・7	母退校講師後
石原武	体育	18・10	姫路東高校
宮崎徹二郎	社会	18	浜坂高校
永田保夫	国語	13	指導教主委事
児島格	理科	6	明石高校
坪田清子	英語	3	鳴尾高校
井上正昭	数学	4	赤穂高校
退職			

お名前	教科	前任校
北上道弘	生物	県立農高校
松浦隆史	英語	赤穂高校
藤井正晴	国語	賢明女子学院
田中照晃	理科	姫路南高校
塚田憲一	体育	姫路商高校
井上謙太郎	社会	上郡高校
井上正昭	数学	三原高校から

高野にて

五十嵐播水

（姫中二十七回）
俳誌「九年母」主宰

石を切る音万縁にひびくなり

大門の夕はながしつるでまり

万縁に早ともりゐる灯籠の灯

大厨煤け放題安居寺

けふの空鏡のごとし沙羅新樹

◎このほかに白城会の事務の手伝いをしても
らっていた大竹一代さん（西高十七回卒）が
このたび童野実高の事務官として転出された
ので、そのかわりに山本進也さん（姫中五回）

卒、山本佐一郎氏の三男リ日の本学園事務室
ご勤務中）が毎週土曜日に奉仕的に手伝いに
来て下さっています。
(長谷川記)

姫路西高を去るに際して

宮崎徹一郎

願いいたします。

若葉の美しい好季節となつてまいりました。白城会の皆様、ご健勝にてご活躍のことと存じます。

私このたび県立浜坂高等学校に転勤を命ぜられ、すでに二ヶ月を経過いたしました。昭和二十六年四月、西高にお世話になつて以来十八年、その間、大過なくすごさしていただきことは、校長をはじめ諸先生方、さらに白城会、育友会の皆様の温かいご指導とご協力の賜物と深く感謝いたしております。在職中、私の最も大きな喜びは校舎の総改築が行なわれ、由緒ある姫中時代の学舎から近代的校舎へと面目を一新し、西高の発展途上に勤務できることであります。それだけに、校舎の一つ一つにも限りない愛着を感じます。

学級を担任した九回生が三年の時に本館東半分が完成し、学年を担当した十六回生の卒業時に体育館が竣工、新装なった同館で個名点呼して送り出した卒業生の雄々しい姿が、い

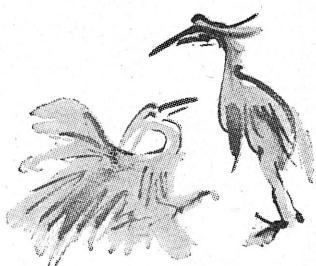
まだに脳裏から離れません。そして、十九回

生が三年の時に、偉容を誇る白亜の殿堂白城会館が完成するなど、思い出は次々と浮かんでまいります。これら西高のすばらしい施設の拡充とともに、内にあっては、教科指導と生徒指導の一体化を通じ全人格的教育が強く推進されるなかに、生徒諸君とともに語り学んだ張りのある日々の学園生活は、何ものにもまして得がたい体験であります。西高は私にとりまして「心のふるさと」と体感しております。

世に「日本を去つてはじめて日本の良さを知る」といわれますが、いま西高を離れてみると、学習意欲に燃えた生徒諸君、すぐれた先生方のご指導、そして施設の充実等、西高の良さが甦つてまいります。今後は、微力ながら任地において、西高でえた貴重な教訓と経験を生かしがんばりたいと存じます。どうか相変わらませずご指導、ご厚誼のほどお

浜坂の地は、兵庫県の北海道といわれますが、湯村に近く、また海水浴場として親しまれている諸寄にも、徒步で約二十分で行ける近距離にあり、騒音と煤煙のない景勝の地です。当地にお越しのときはお立ち寄り下さい。

終わりに、西高の躍進と白城会員の皆様のご多幸を祈念してご挨拶にかえさしていただきます。



アメリカ留学における一考察

松田 武（西高十七回）

アメリカは、文字どおり大きな国である。そのような巨大な国に、約二十カ月という短い期間で、私がアメリカを理解したとは考えられないし、また、時間的、物理的な制約があり、私には、それは到底無理な問題である。しかし、このたび白城会から、私の留学生活に関する件をなんでも、ということでお頼まれましたので、たいへん私的なものになりますが、ある西高卒業生の一経験談として、この寄稿を読んでいただき、少しでも「生」のアメリカ像をお伝えできれば幸いと考えます。留学生活といつても、多くの局面から語ることができます。紙面の都合上、まずは留学先のご紹介、そこでの目的と専攻、最後に、教育制度と学生のそれに対する態度と日常の関心事を述べたいと思います。

サンケイスカラップの留学生として、アメリカ・ワイスクンシン州マディソンにあるワイスクンシン州立大学に着いたのが一九六七年の九月でした。多分、ご存じだと思います

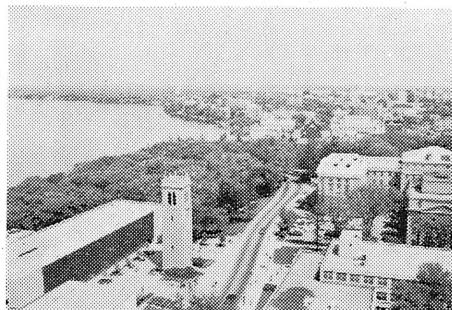
が、ワイスクンシン州は中西部にあり、夏は、からつとして涼しく、アメリカ人の避暑地として知られ、冬は摺氏零下三十度くらいにもなり、すべてが凍ってしまいます。

そこでは酪農がたいへん盛んで、チーズ、バター、ミルクの生産は全米でも指折りの中にはいったおり、また、その味も格別です。その州都であるマディソンは、政治的、学術的にも有名で中心をなし、そこには三万三千人という学生を抱えた、いわゆる巨大な総合大学があります。この大学にどのような目的をもって学んだかといえば、われわれ日本人がいだいているアメリカ像と、実際のアメリカとのものに差がないだろうか。もしあれば、それはただ単に二国間に存在する距離からだけ起こるのだろうか。言い換えれば、一部の人々が言っているように、アメリカは自由、平等、博愛、民主主義に徹し、全国民が人類史上かつてない幸福と福祉を享受していると詮歌すれば、また一部の人々が言っているように



アメリカは陰険な帝国主義的搾取国で、そのことゆえに、世界の紛争の原因をつくつていると、するどく非難する。このように両極に分かれた、意見の価値判断をここで下すことは適切ではないが、はたして、巨大なアメリカの像をつくっている原動力とは何であろうかという単純な知的好奇心が一語でいう私の留学目的意識でした。このような目的を心にとめて、まず、他の学科、すなわち政治学、国際政治学、社会学、経済学という選択も許

されましたが、留学期間の制限もあり、比較的はつきりとしたアメリカ像を与えてくれる歴史学、すなわちアメリカ史を専攻することに決心し、最初、通史をやり、後にはアメリカ独立革命とアメリカ対極東外交政策を重点的に学びました。もちろん、私は歴史のみでとどまるべきでないと考え、時間と体力の許す限り政治学、社会学、国際政治史などのコースを聽講し、歴史で学べないもの補うよう配慮したことをつけ加えねばなりません。では、私の留学生活の大部分を送ったワイスクンシン大学について制度的に思いついたままを述べてみたいと思います。アメリカ、特にワイスクンシン州では、満六歳になると小学校へ行くことになっている。小学校へは八年間、それからハイスクール（日本の中学、高校にある）へ四年間、計十二年が義務教育期間である。ハイスクールで平均ABC D EのうちCの成績を保つていれば、当然州立大学へ行けることになっている。であるから平均Cというと、ほとんど誰もが一応大学へ行ける機会はあるのである。であるから、ハイスクールの四年間は、日本のように競争的ではなく、いたってのんびりとしており（もちろん例外はあるが）社会活動は非常に活発



（日 本 の 意 味）
近 く の 酒 屋

である。一例をあげれば、ワイスクンシン州では十八歳以上の者はビールを飲んでもよいと法律で示されている。すなわち、これはハイスクールの四年生は、法律上、当然飲んでよいと意味しているのである。四年生だけならまだしもよいが、中には十八歳未満で四年生にたのんだり、または通りがかりの人、特に外国人留学生にたのんでビールを買ってもらう。ハイスクールの学校の圧力がないのと、社会活動（パートナーなど）が盛んなので、ややもすると、若い者にとって学問よりも、異性への憧れが強くなり、行動へ移す機会道はうるさくて、交通で騒がしいのではなく、アルコールに酔って、騒ぎ、どなり、ときには店の窓ガラスをこわすこともあるのであります。彼らがどうしてこのような振舞いをするかという原因是、いろいろと考えられるが、一つとしては、個人の精神的不安定といえるが、社会的制度からくる圧迫感がそうさせているものと私は考える。高校生の生活態度の結論として学校での圧力の不在（実際、大学入学試験がない）と、アメリカ大陸による偏狭主義とあまり目を世界に向かないから自然と判断力に欠ける狭いアメリカ国民主義的意見を持つようになる。私の訪れたいくつかの高校でもほとんど東洋に関する授業はゼロといつてもよくくらいにおそまつなものである。であるから、若い高校生のエネルギーの

では少し違うリターバーンへ行き（ときに一人、普通は二人で）いつものようにビールを飲みながら、ロックンロールの音楽にあわせてダンスをしたり、低俗な話をして夕方を過ごし、アルコールがまわっているから、つい彼らの自制心は、ぶつてくる。若さといふことでいろいろな間違いを起こすことがよくあるのである。私が、マディソンのアパートに住んでいたころ、土曜日の夜などは、道はうるさくて、交通で騒がしいのではなく、アルコールに酔って、騒ぎ、どなり、ときには店の窓ガラスをこわすこともあるのであります。彼らがどうしてこのような振舞いをするかといふ。たとえば週末には彼らは近くの酒屋

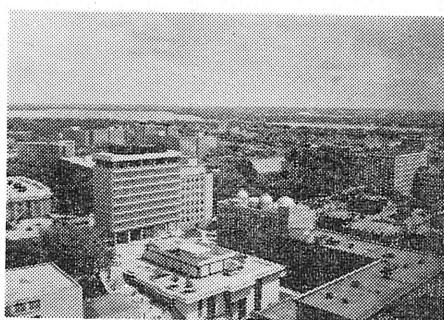


はけ口は、(1)スポーツ、特にアメリカン・フットボール（しかし、すべての学生が好きではない）(2)ビール・マリワナ(3)異性(4)あてもなくうろつくこと、になりそうであります。次に大学生の態度と学校外の態度について。高校でC平均を保っている者は、一応大学に入学できる。であるから、毎年、大学に入学する生徒の数は多くなっている。一つには、アメリカでは、(日本もそういう傾向

もなきにしもあるらではあるが) 教育年数と所得は比例し、能力よりも卒業証書を重要視する傾向が社会全般にあり、(能力と証書と一致する場合がたいへん多いが) 上級階級の子息は、エリート大学へ、中産階級の親は、子供が少しでも社会的地位をあげるように望んで、子供を大学に送るのである。大学一年生は、いざ大学に来てみると、高校のときのようにのんびりとしておれないことを知る。そして大学ではまず成績が大切で、かつ真剣であって、平均Cを保持しなければ、いや応なしに学校から追放される。であるから、今まで社会の現実の圧迫を感じていない学生にとっては、この一年間は、たいへんな試練となる。ルームメイトの話によると、毎年三分之一の一年生は、大学から追放されるとのことである。大学の方針として、法律的に大学への門戸は開放するが、定められた標準に到達しない生徒はどうぞしと退学させ、大学の基準を保っている。すなわち、そこに落伍者と失敗者の原因がある。なぜアメリカの学生（特に男子学生）が、そんなにも成績に気をもんでいるか。その理由の一つに、成績 자체が仕事に結びつき、将来の所得に通ずるという俗物根性で—これはすべての生徒が多かれ

少なかれ持っているものと思うが—ある。であるから、ややもすると、一学期において何を学ぶか、何を学んだかというのが、中心問題ではなく、教授または助手がどんな成績をくれるか、試験がどの位成績に対し重要か、または何パーセントを占めるかというような、生徒が心配すべきでない些細な点に多くの注意が払われているように思われる。もう一つの理由としては、もしC平均を保てなければ、退学である。これは何を意味するかといえば、退学後、遅かれ早かれ、軍隊の徴兵が待っている。特に今日、ベトナム戦争が続行して進められているから、若者にとって、理由は何であれ、それが大きな学問への圧力になってしまっていることも否定できない事実である。しかしながら、よほどなまけ、学校を休まない限り、自分の経験からいえば、平均Cは保てるはずである。だから、彼らの成績に対する異常なまでの執着心は、その成績がドルに、または資本主義の社会制度につながっているといつても言い過ぎではなかろう。制度としてみてみると、'Wise康成シン' 大学は一年に二セメスターあって、一セメスターに試験は三回、これは最小限で、そのほかに小論文とか読後感のレポートとかの課題

が出される。であるから、ほんとうに学生が一つ一つの試験または課題に良心的であれば、たいへん忙しいということは、この試験の回数からいっても想像できると思う。日本ではセメスター式ではなく、一年に多ければ二回であるから、自然と時間的な面で差がでてくるはずである。アメリカの場合、大学で規定された試験以外に小テストが週に一回か二回外國語の場合は毎日、課される。こうなると学生は、試験のこととに注意を奪われ、世情にうとく、知識の不消化を起こす。当然のなり行きであろう。それから、学生も機械でないから、毎日、勉強しているわけではない。特に週末では、日ごろの圧迫された生活からくる重苦しい気分を払いのけるためか、社会活動は、たいへんさんである。残念ながら、日本で報道されるのは、この場面があまりにも多すぎるようと思う。アメリカの学生の関心事としてもう一つつけ加えたいのは、よく勉強する者に限って心身ともにバランスの生活をしているようと思える。日本の場合よく勉強する人のイメージは、やせて、細くあまり頭髪、服装に注意を払わなくても、頭の中身でカバーするというような考え方を持つ感がある。アメリカの場合、伝統的にフロン



けよ
けよ
もつ
力だ
な魅
面的
を着
一ツ
かい
チと
コン



うと注意を払っているのとでは、生活上の大
きな考え方の差を感じさせずにはおれない。た
いへん大切な問題を、さっと流してしまった
ような感じで申しわけないのですが、読者の
よきご理解を期待しつつ、簡単ですが、これ
にて、ペンをおかせていただきます。

アフリカの生活と現地語

文 絵 尾 田 稲 子（西高十三回）
龍（姫中三十六回）

「アフリカへ?!」「何しに?」「アメリカ」というのなら話もわかるけれど、そんな不潔な所やめた方がいいのじゃない?」「黒人というのは野蛮やそうやけど無事に帰れるの?」「…等々。私が東アフリカ三国の一つタンザニアへ派遣される前にはこんなふうにいわれたものです。そして、当人の私すら何一つ確かなことは知らず、住宅がないのではないかといわれれば大工道具一式、大小とりませた釘まで含めて用意し、衣料品は?と言われればこれまで二年間の契約期間だけは充分過せられた。飛行機の中から見渡したダレスサラームは暗闇の中に真直ぐ太く走る灯色の高速道路用の街灯の列が、一段と鮮かに光っていたのが印象的でした。ここで一週間いる間にタンザニア政府によって赴任先が決められた挨拶一つできるわけではなく「ジャンボー（こんいちわ）」というのが精一杯。迎えに来たその役人も、英語もスワヒリ語（現地語）も満足に話せない私達「先生」にいさか驚きあきれたようでした。彼達のそんな心配をよそに、私達は空港から町へ入ってゆく道路のすべて舗装されていること、その両脇に流れでゆくすばらしい杉並木、木の間にチラチラと見える赤い屋根の大きな家々、鉄筋コンクリートの家、そしてゴルフ場を見るに及んで驚いたりホッと安心したり、一方、自分達の荷物の中味を思うと急におかしくなつてしましました。その荷物も十日程あとには着き、我家も決り、いよいよムベヤでの生活がはじまりました。

ザンビヤ

ムベヤの町は標高一、八〇〇米の高地にあります。途中香港、バンコク、ボンベイとナイアデン、ナイロビに立寄り、ボンベイとナイロビには各々一泊して三日目の真夜中、とう



との国境に近いムベヤという町です。私の貧弱な予備知識では南方高原地帯の中心の町で白人の基地ともいわれる所、という位しかわかりません。

ダレスサラームから五時間、ムベヤの飛行場に着きました。外気はヒンヤリと肌に心地良かつたのを覚えています。迎えに来てくれていた上司、これから毎日顔を合せてゆく人だなどつくづく顔をながめましたが、気のきいた挨拶一つできるわけではなく「ジャンボー（こんいちわ）」というのが精一杯。迎えに来たその役人も、英語もスワヒリ語（現地語）も満足に話せない私達「先生」にいさか驚きあきれたようでした。彼達のそんな心配をよそに、私達は空港から町へ入ってゆく道路のすべて舗装されていること、その両脇に流れでゆくすばらしい杉並木、木の間にチラチラと見える赤い屋根の大きな家々、鉄筋コンクリートの家、そしてゴルフ場を見るに及んで驚いたりホッと安心したり、一方、自分達の荷物の中味を思うと急におかしくなつてしましました。その荷物も十日程あとには着き、我家も決り、いよいよムベヤでの生活がはじまりました。

り、赤道真下でもキリマンジェロの山が万年雪を頂くようにこの町はアフリカとはいえ、常に秋から初冬にかかるような気候のところで町の裏手はそのまま山になり、遠くからみると夜など山の中腹に民家のあかりが点々とみえ、なかなか美しい眺めです。タンザニアの中には十七州あり、州庁の所在地はどこも一応西歐的に整った町になっていて、イギリス人が統治していたためで白人が住めるよう、町自体を設計し、作ったものでこのムベヤも例にもれません。現地人が住みつく前から、この山の中腹を切り開き、上、下水道を完備させ、道路も碁盤の目のようにひき、山手には高級住宅街、町中には官庁街、商店街そしてその商店経営のほとんどを占めるインド人の住宅街、一番端に現地人の住宅街ときれいに区別されています。一軒の敷地が千坪、二千坪とあり、杉林の中にかすかにうかがいみることのできる高級住宅街に比べ、現地人街の何と建てこんでいること。寝る場所さえあればいいといっている白人の姿が目に浮ぶようです。この白人の築いた西歐式社会の中では何かといふと白人の力を借りねば何もできなかつた現地人も一九六一年の独立以来「独立独歩」を合言葉に一步一步進んでき

ました。特に一九六二年に共和国になってからは特に国家意識を高めようと一生懸命です。百二十五もある部族を一つにまとめるには「タンザニアは一つ」という意識をもたらせねばならず、そのためスワヒリ語一本で通じるためにスワヒリ語という、对外的に



葉を第一公用語に決定したとか。ところがここの国ではもう一つ、驚く程各地で通用する言葉があります。それは英語です。イギリスに統治されていた関係から、学校教育はすべて英語が用いられ教育を受けた人はまるでそこ

で生れ育った人の如くきれいに話しますし、例え読み書きは出来なくても仕事をもつている人なら言葉には不自由しません。逆に私達日本人は読み書きができるもしゃべれないといふ人が多く、学校時代勉強らしい勉強もしなかつた私などその読み書きすら満足にはできず、それなりにスワヒリ語一本で通じうと心の奥深く決心し、英語は知らぬ存ぜぬの一点張。イエス、ノーサエ言わぬ変な白人（私達も現地にゆけば白人。黄色人種という言葉さえ知っている人は少い）に戸惑ったのは現地人。前記のような教育事情なので、逆に英語を知らないのはよほど馬鹿か無教育者だと思っていて、その無教育者が現地人の指導者として来た。一体何を、どんなふうに教えるのだろうと、半ばあきれ、半ば興味深々。ところが一ヶ月、二ヶ月とたつと馬鹿なはずの英語を知らない白人がスワヒリ語を、それも意外なスピードで覚えてゆく。彼達の常識では考へられないこのことに、私達日本人に対する興味は深まるばかり。人口三万人程の小さな町、またその中のほんの一握りの指導者達。私達のことが知れ渡るのに二日とかかりません。私達が言葉を覚えてゆくにつれ、興味は驚きに変り、スワヒリ語のもつ

国家意識のことを思い合せ、ついにはこの国唯一の政党タヌー党の人達も集会の度に私達のことをとりあげ「私達の言葉を使って協力してくれている日本の彼女達こそ本当のタンザニアへの協力者であり、理解者だ。英語で私達に何を協力するというのだ。私達も彼女達の協力に応えねばならない」などと演説する有様。ここまで来ると、もうすっかり災転じて福となつた感があります。何か一ついい方向に向くと次々とくなるもので、スワヒリ語を話すという一つのことから町全体が協力的になり、私達本来の仕事である洋裁指導も生徒も断えることなく続き、教室運営のための資金調達のバザーなどにもタヌー党はじめ町の人々が協力してくれるので私達もそのお金でまた新しい布を買い新しいクラスを開設することができるのです。

私達は外務省の外郭団体、日本青年海外協力隊の隊員としていたのですが、資金が与えられるわけでもなく携行資材そのものも最少限しかもてゆかないので、洋裁指導といつても布が充分用意されず、すべて自分達で何とか調達しなければなりません。はじめ、そんなことは知らず、日本の学校式に同時に教えるには同じものを、と十才用女兒ワンピースを五十枚以上も作ってしまいました。いざ売らねばならないということになってしまった時は、休むわけにもゆかず、仕方ないので、はじめての人は紙に線を引いてそれを何回も縫わせたりしていた時、町役場が布一巻を寄

附してくれてやっと急場をしのいだということもありました。それからは売れるものをとることで、種類を多く、数を少くという具合に変更したのですが、いわゆる後進地区といわれるところへの技術援助は、技術だけではすまされないということ、他の業種でも同じですが、痛感しました。

私達はスワヒリ語を使って一応成功したのですが、それと同じことは洋裁を教えるの中にも言えたことです、こんなことがありますました。教えようとするものはすべて前もつてサンプルを作りましたが、そのサンプルには、日本からの布を使っていたところ、ある日生徒の一人がうまく縫えないのにイライラして、「これは日本の布で作ってあるから美しいけどジンジャ（東アフリカでできる厚手の木綿）で作ればこんなのはずがない。」といったのです。他の生徒達もそうだと思います。そこからはサンプルがいい布だとついて来なくなりました。私達もそれ以後生徒達が縫う布、つまり現地で簡単に手に入る布でサンプルを作るようにしてたところ、生徒達は再び熱心になりました。郷に入れば郷に従えといふことなのでしょうか。ここではふれなかつた現地人の生活そのもの、衣、食、住にわたくつてこれと同じことがやはり言えますし、また逆に郷に入らねば郷の良さ、面白さはわかるとも思います。

二年間の任期を終えて帰国した今もタンザニアの生活がなつかしくてたまらず機会があればぜひ一度いくつてみたいと思います。



MBEYA. 郷の市場 又のど

備前焼と私

福永幸子



「備前焼をやりだした動機は何ですか？」
とよく聞かれますが、私ははつきり答えたことはありません。女子部を卒業した時専攻がグラフィックデザインであつたため広告の世界に何の抵抗もなく入って行きましたが、テレビ、雑誌、新聞などの広告は、その時の傾

向とか流行、すべての人の趣味をすぐ鋭敏な反応によって作品をつくるという私にとっては難解なものでした。私自身は自分の環境、体験を通じて納得のいく事でない限り作品としても、自分のものとしない鈍感な性分であり、広告の世界の流れの激しい中ではとてもついてゆく能力がなくすぐにやめました。人それぞれに適した道がある様に、あせらず、これと思ったものが必ずあると確信して何をしたら良いかを考えていた丁度その時、オーストラリアから一時帰国された方にお会いして話を伺って行く事になりました。何しろ広い所が見たい、今までと違った環境の中で生活経験をする事によって何か得る事もあるだろうと思ふのみで、決して大きな期待も持たず、あわただしく出発しました。

オーストラリアといえば見渡す限り広漠とした平野に羊が群をなしている国とか、日本とは季節がまったく逆であるという知識しかありませんで

向とか流行、すべての人の趣味をすぐ鋭敏な反応によって作品をつくるという私にとっては難解なものでした。私自身は自分の環境、体験を通じて納得のいく事でない限り作品としても、自分のものとしない鈍感な性分であり、広告の世界の流れの激しい中ではとてもついてゆく能力がなくすぐにやめました。人それぞれに適した道がある様に、あせらず、これと思ったものが必ずあると確信して何をしたら良いかを考えていた丁度その時、オーストラリアから一時帰国された方にお会いして話を伺って行く事になりました。何しろ広い所が見たい、今までと違った環境の中で生活経験をする事によって何か得る事もあるだろうと思ふのみで、決して大きな期待も持たず、あわただしく出発しました。

長い長い船の生活は楽しい事もありましたが、ある種の試練に耐えている様なものでしたが、オーストラリア、ニュージーランドを通しての生活は日本からの珍客として周囲の親切の中で、美術関係の大学を見せてもらったり、お世話になつた陶芸家と会うにつれて、



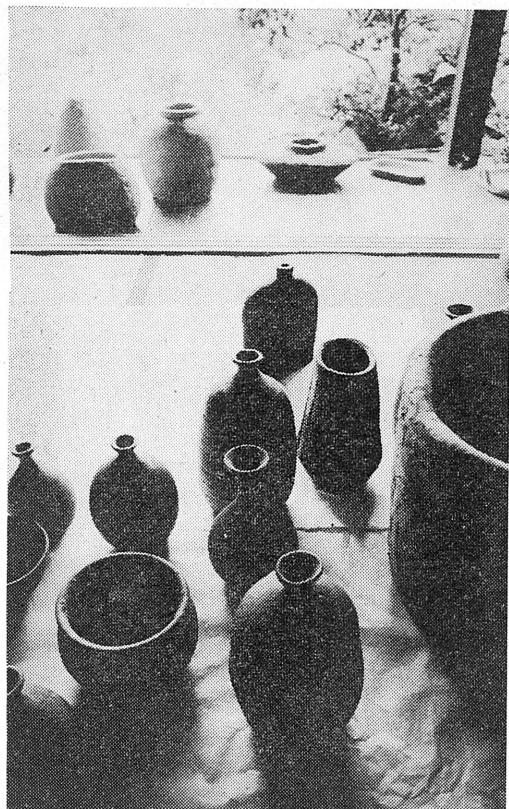
私の黄色人種であり、アジア人であるという

ました。

変な劣等感は感傷的なものに過ぎないと痛く
感じさせられ楽しく好奇心に満ち、夢中で過
した七ヶ月でした。人と人との偶然の出合が
その人の一生を左右する事がある様にオース
トリアの陶芸家との単純

な出合は偶然かそれとも、
私がずっと考えていたもの
から出発した機縁であった
かも分りませんが、彼等と
の私は私の理解出来る英語
の能力でしか解釈出来なか
つたけれども、日本の伝統
的な焼物の知識が豊富でそ
の良さを知られた事は大き
な驚きがありました。今
まではデザインをやつてい
た関係もありますが、伝統
的な日本のものを見る機会
も少いという事もあったの

えされ、まったく単純素朴で力強く、素直に手
にとって自分も造つてみたいという衝動にか
られ、備前焼の世界にまぎれ込んでゆきました。
馬鹿でも二年やれば何んとかなるという
事を頼りにしましたが三年も過ぎた今では怪
しいものです。変な女の子
だ、今に水を上げるだろう
と噂されたり、女流陶芸家
ですか？とか、なぜ焼物を
やるのか？とか色々な質問
にうんざりしました。完成
品だけを見て漠然と考え
いた私には焼物は生易いも
のではなく、土をつくる事
士をねる事、ロクロを引く
事、窯だきの時、私にはす
べてが重労働でした。土に
振り廻され、泥と汗にまみ
れて最初は悪戦苦闘の連続
でした。



か、それとも私の鑑賞眼がなかつたためか、
その時の事は今でも忘れられません。逆に日
本の四季によって表れる風景の微妙なニュア
ンスを感じている日本人には大陸的なオース
トリアの風土は何か物足りない様な気もし

り好きじやなく、姫路に帰ると同時に伊部に
行き、はじめて備前焼と対面したぐらいに、
備前焼の知識が浅かつたものでした。大谷石
の様なダラダラした肌と渋い色はモダンクラ
フトに慣れた私自身の考え方を一挙にくつが

よたよた、よろめきながらもなんとか形が
出来る様になり、それが犬や猫用のものであ
つたけれども、直接手をとつて教えてもらつ
た事もなく、見よう見まねで覚えて感じた事
はこつこつ地道な努力と経験を重ねねばどん

な事でも出来るという事でした。

釉もない土と火だけで焼成された焼物にはやはり窯焚きが一番面白いのですが、ロクロの技術的な事から入りまだ窯焚きの力を使え



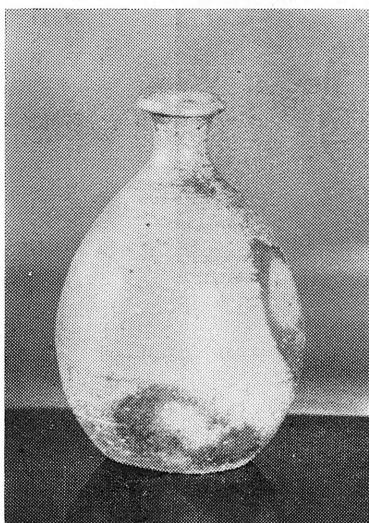
私自身よく分らないので、もつと本質的に勉強する必要があると感じています。いつもいつも夢中でコンスタントに造つていた訳でなく、家庭の事情や私個人の諸々の不安に、私の気持の起伏と変化を絶えずコントロールする事は大変なものでした。無釉という事により、土と手の動きによって表れるロクロ目はその時の私自身の性質や心理状態がさけ出される気がします。そのため作品を作る悩み以上の努力が必要であります、やめる気もなく続けていられる事は窯元の人々と友人の人間的暖みと好意による所が多いにあり、備前焼を造る事によって多くの事を知りました。

苦しさときびしさの中から生れたものは絵にせよすべて力強く訴えるものが大きく、すばらしいものが大きくなります。そのようなものからある程度の距離を持つて楽しんでいる状態です。私自身は实用性に拘泥する傾向がありますが、生活の用途としての焼物を目的として身近なものであるなら、花入雑器を造るばかりです。これに何の花を活けたいとか、何の料理に使いたいとかを考える余裕を持つてゐる事も使え

る焼物を造る事の楽しみです。

陶芸は使えるものでなくてはならないといふ事は正論であるとは思っていません。絵画や彫刻の様に実用的価値だけではなく、見て樂しまるものであっても良いはずです。人は暇を見つけて、本を読んだり、スポーツをしたり人それぞれの楽しさを持ってゐるでしょう、それと同じ様に心の寄り所、心の糧として、ずっと続ける事は、すばらしい事であると思っています。少くとも土と触れて夢中になつてゐる緊張感はすべてのわざわらしさを忘れさせてくれます。今の所確固とした信念もありませんが、緩慢ではありますが、長い時間をかけて備前焼にこだわらず統けて行きたいと思っています。それが自分だけの楽しみであつても、重要な価値がある様な気がします。

(西高10回)



[私] [の] [考] [え]

昭和四十三年度後期全校委員長

柳川洋子

(西高三年生)

私はこの間、東京外大におけるいわゆる紛争をテレビで見ました。新入生及び視聴者にその実体を知る目的で学校側代表と全学共闘派代表の各々の意見を交換しあう主旨でした。その会場には新入生と全学共闘派の人達がつめかけおり「あなた方はですね」と学生側の怒った声で始まり「君たちも学校側の立場というものを少し考えてほしい」と番組は終りました。

「私がその場で得たものはなにでしよう」寮の管理権問題、機動隊導入、全学集会などあらゆる不満を学生側がのべ、学校側の答弁となるのですが、それが大勢の仲間達のやじやら、大声の怒声やらでかき消されて、新入生はもちろん、こちらの視聴者側にも伝わらないのです。物がとんでもなく、歌を歌いだすやう……司会者も非常に興奮しており（私も非常に激怒しましたが）「もっと相手の言い分を聞きなさい。視聴者もきっと良く

は知らないだろう。新入生が何を言っているのかわからないと、言っているじゃないか」と叫んでいましたが、いっこう事態は変化しません。全学共闘派の人達の意見や考え方をどうこういうのではありません。言い分も納得のいくものです。しかし私はこの短い間にどうしてもやりきれない気持ちにおそわれたのです。それは、終始この会場にムンムン流れ、そして爆発せんばかりに脈うついた学校と学生間との大きな不信感です。

教師と学生が共に学ぶ自由な学園―大学―は今どこへ消え去るうとしているのでしょうか。私は今、あるように不信感でうづまいた。まなびやへ一体なにを学びにいこうとしているのでしょうか。

現在わが西高でも、頭髪問題などを中心として学校への不信感がないでもありません。はつきりいって、一部の者（それはいまでは集団化しつつあるのではないか）は非常に、学校を非難しています。私は全校委員であつた立場上彼らによく接します。彼らは決して全学共闘派の一派でもなく、ただ正義感に燃えた若者だという感がします。彼らは高校生活への執着が激しいのです。僕らの手で自由な学園をと勢いこんでいる者たちなのです。

その点では、彼らは称賛にあたいするかもしれません。けれども、そのいわばやつづるんだとか、勝ちとるんだとかいった姿勢に目をおをわざるを得ないので。学校側との意見の対立はいいでしよう。どんどん若者の意見を言うべきです。新しい風を吹きこむべきです。しかし、自分達の意見がとりいれられないからといって、深い学校への不信感に陥り入ってゆく、このような心の対立にだけには陥りたくありません。冷たい心の対立や憎しみの中での進歩がありましょう。

私は今、西高において先生と生徒が一体となつて、西高生活をより自由なすばらしい学園となるよう、諸問題を改革しようという姿勢で、進むべきであることを願うのです。

先生方も私たち一人一人の意見を「なに、生意気な子供のくせして」といった立場でなく、一人の善良な者の意見として耳を傾けていただきし、私達もまた、学校の立場を尊重しつつ、素朴な訴えを発し、その後は私たちが存在する西高―私たちの学びやーが冷たい戦争の戦場と化しないよう努力すべきです。一言で言えば、愛校心とでも言いましょうか。

二十一回生の進学状況

岸 達 男(姫中55回)

本年の大学入試は前代未聞の東京大学入試中止という誰も想像だにしなかつた様な、異常事態となり、それに伴って他大学の入試競争も激しさを加へ且つまた京大、阪大等の大学に於ては機動隊に守られた入学試験。その入試会場も当日にならなければ判らない様な大学もあり、正に異常づくめの中に実施されました。が、本年卒業の二十一回生は、この混乱の中であっても事態をよく見極めて、動揺することなく平素鍛へた学力、気力、体力を十二分に發揮して別表の如き成果をあげ得たことを心より喜びたいと思います。

この成果の蔭には白城会同窓諸兄姉の後輩に対する暖かい精神的なお力添があつたことを会員の皆様にお知せすると共に、このご厚情に対して厚くお礼申し上げます。特に阪大、京大、鳥取大、岡山大、広島大、奈良女大等に進学される先輩の方々が後輩受験生に対し宿舎の世話から受験に臨んでのご忠告励げまし或は合否発表と同時に現地より、学校に長距離電話で合格者氏名を連絡下さる等大変なご配慮を戴いたことを厚く御礼申し上げます。同じ西高の学び舎で学んだ白城会員としての先輩後輩の美しいきずなが昔も今も愛はることなく、質実剛健の伝統と共にいつ迄も続いてゆくことは嬉しい限りです。なお、本年も十数名の就職希望者がおりましたが、この者に對しても先輩の方が色々御配慮下さい、それぞれ希望する処へ完全就職出来ましたことをご報告すると共に厚く御礼申し上げます。最後になりましたが本年不運にも大学入試に失敗した諸君はこの際、自分の人生目標をはつきりと見定めてその目的達成のために、あせることがなく着実な努力を積み重ね自己をますます磨いて来年こそは合格の栄冠を得られる様お祈りする次第です。

昭和43年3月卒業生（第21回生）

学部別大学合格者延数（姫路西校）（合格者数は卒業生を含む）

大 学	学部	合計	大 学	学部	合計	大 学	学部	合計
北 大	理	1	大 阪 大	薬	3		法 文	7
東 京 工 大		1		法	2		教	1
お 茶 の 水	文	2		文	3		工	6
金 沢 大	薬	1		經	5		農	1
名 古 屋 大	理	1		營	2		教	3
	經	1		理	1		文	3
	法	3		工	18		教	2
	文	2		醫	3		文	1
	經	2		農	1		教	1
京 都 大	理	1		教	26		工	1
	工	15		文	5		工	1
	薬	1		理	3		教	1
	農	5		家	3		營	1
	法	1		工	4		電	1
大 阪 大	工	15		農	1		通	1
	基	1		教	4			1
	医	1		東京水産大	1			1

東京外大		1	1	公立短大	合計	17	17	関西医大	1	1
静岡大	工	1	1	千葉工大		1	1	大阪医大	2	2
福井大	工	4	4	文法		1	1	西日本医大	2	2
信州大	工	4	4	文法		1	1	京都薬大	5	5
名工大		8	8	文法		2	2	大阪工大	1	1
京都工芸		6	6	文法		1	1	大阪歯科	4	4
京都教育	経	10	10	工経		1	1	大阪樟音大	1	1
滋賀大		3	3	商法		1	1	大阪音大	1	1
大阪教育大		5	5	商法		4	4	大阪薬大	10	10
奈良教育大		1	1	文法		1	2	関西大	4	27
神戸商船大	航機	2	3	文法		1	1	甲南大	3	7
山口大	医理	2	3	文法		1	1	関西学院	5	68
香川大	経農	7	9	文法		1	1	神戸女子薬	11	11
媛媛大	工理	2	4	文法		1	1	神戸女学院	3	5
東京学芸大		2	2	文法		2	2	松蔭女子大	3	3
鹿児島大	工	1	1	商法		1	1	甲南女子大	1	1
大阪外大		2	2	商法		1	1	親和女子大	4	4
鳥根大	教	2	2	商法		1	1	武庫川女	5	7
富山大	文理	1	2	商法		3	3	ノートルダム清心	1	2
国立二期校		76	76	商法		1	2	広島工大	1	1
高崎経済		3	3	商法		1	1	松井工大	1	1
横浜市大	医	1	1	商法		1	4	私立大	284	284
静岡大	薬	1	1	文家		3	3	武庫川女子短	1	2
岐阜大		4	4	文家		1	3	京都女子短	2	3
都留文科大		3	3	文家		2	2	頌栄短大	1	1
京都府立医		2	2	文家		6	6	神戸女子短大	1	1
京都美術大		1	1	文家		3	3	松蔭短大	1	1
京都府大	農	7	11	文家		1	1	大谷女子短大	1	1
大阪府大	経	1	1	文家		5	6	私立短大	9	9
大阪市大		1	1	文家		14	14	氣象大学	1	1
三重県立医		1	1	文家		4	4	岡山大衛生	1	1
和歌山県立医		1	1	文家		1	1	神大付属看護	1	1
神商大	経営	5	13	文家		6	6	大阪府立衛生技	1	1
	管	2	13	文家		2	2	兵庫県歯科衛生	1	1
広島女大		13	13	文家		2	2	大學生	1	1
下関市大	経	3	3	文家		5	5	神大付属看護	1	1
姫路工大		20	20	文家		4	4	大阪府立衛生技	1	1
北九州大	外経	2	4	文家		3	3	兵庫県歯科衛生	1	1
静岡女大	文	1	1	文家		5	5	大學生	1	1
愛知県立大	文	1	1	文家		2	2	神大付属看護	1	1
神戸外大		4	4	文家		5	5	大阪府立衛生技	1	1
高知女大		3	2	文家		4	4	兵庫県歯科衛生	1	1
公立大学	合計	91	91	文家		1	1	大學生	5	5
尾道短大		4	4	文家		2	2	准		
姫路短大		12	12	文家		1	1	合計		
岡山女子短		1	1	文家		2	2			

先輩から後輩から



私の生命的の泉

井上智勇（姫中三十六回）

←

姫路西高創立十年の年、私は招かれて講演會をしたことがある。昔の生徒控室と柔道場のあたりであろうか、鉄筋コンクリートの堂々たる建物が立っている。しかし昔の正門を入ったところの木造の校舎が、古ぼけた姿でわびしく残っていた。今は恐らくこの校舎も取り壊されて、新しいものにとってかわられているであろう。時代の移り変わりをさまざまとみせられた思いであった。大正九年—それは私が西高の前身の姫路中学へ入学した年であるが、あれからもう足かけ五十年になる。この半世紀の間に、日本も世界も言葉でいいつくせぬ程変化した。世界や社会だけでない。白いゲートルのボタン一つ足りなくて

でも、根本的な問題は、その形を形成する、あるいは、形をつくってゆく人間そのものに、あるのではないであろうか。

姫路中学四年間に多くの先生方にお世話になつた。一人一人の先生方の姿は今でも脳裡に焼きついている。また私個人としてのいろいろな体験で、今日の私をつくり上げる有力な根底となつたものも少なくない。感謝の意をこめながら記してみたい。

一年生の一学期の中間試験が各課題について行われた。五月の終りごろであろうか。一応満足できる答案を書いたつもりだった。はじめてならった英語がやや不安だった。試験がすんでからすぐ次の英語の時間がきた。担任の楚上先生は開口一番「先日の試験の結果を発表する。ただし十点満点で六点以下のもだけを発表する」と前おきして名前をあげていった。二、三人あとで「井上。お前は五点強」という声が耳に入ってきたとき、私の身体は電流が走るようにふるえた。今でも覚えている。私の失敗した点を。問題は2問で、一番は英文和訳、二番は和文英訳。私の失敗は二番であった。それは、次の和文を英訳せよ、という問題で次の文であった。

あなたは姫さんがありますか

花子です

お年は

十一

私の英訳：いや英語になつていないので、とにかく単語を結びつけてこしらえたのは次のとおりであった。

Have you a sister?

Yes, I have.

What is name.

Is Hanako.

How old is she?

Is ten years old.

この失敗が明らかになつたとき、よし、学
期末には満点をとつてやろう、と決心した。
他の生徒がまだ参考書をつかつていないと
に、参考書を買い求め、道を歩くときは勿論
食事、便所、風呂と、どのような場所にも書
物をおくようにした。私がほんとうに英語が
すきになり、三年のときには、もうその頃の
高校受験生もつかわない高校入学の参考書で
あつた南日幸太郎（文字が違うかもしけな
い）の英文和訳を読み上げたのも「五点強」
のお蔭であった。塙上先生にはほんとうに心
から感謝している。

耳に飛び込んだ。「やりかけたことはやつて
しまえ」と口の中でくり返しながら鉄棒をす
ませて集合場所へ走つた。
あれからもう五十年になる。大学へ入つた
ら西洋史をやろうと決心したのは姫高一年の
思いであつた、といふのである。授業は形式
的に行われるが、私の駄弁の中に、ほんとう
の私がじみでてゆくためである。これと
同じことを私は中学一年のときに体験し、そ
のときの先生の一語が私の一生を支配してい
るのである。

秋晴れの気持のよい日であつた。小菅先生
受けもちの体操の時間である。軽い柔軟体操
をしたあと、先生は「おい組長。皆をつれて
鉄棒のところへゆき、一人一人尻あがりをさ
せろ。終つたものはこちらへ帰れ」といわれ
た。私は「かけ足」の号令をかけて鉄棒のと
ころへゆき、順番に尻あがりをさせた。皆が
すんだので、最後に私が鉄棒に向おうとした
とき、運動場の西北隅にいた先生が「集まれ
！」という号令をかけた。号令には直ちにし
たがわねばならない。鉄棒に向つていて私
は、直ちにくびすをかえて集合のためかけ足
で十数歩も走つたと思うとき「やりかけたこ
とはやつてしまえ」という先生の大きな声が

私も昭和八年に先生になつたが、それから
もう三十六年になる。その間、昭和十七年十
月から十八年五月まで、第三高等学校の教授
になつたことがある。毎金曜日が私の面会日
にしていた。夕方六時頃から午前一時、二時
頃まで、毎日十数名が私の家へおしかけて来

四

の源泉である。

母校を訪ねて

松本 隆一

(姫中五十五回)

私のいる神戸大学は「坂のある大学」として有名です。私が本学に赴任してから、はや七年には年月が流れ、その間に阪急六甲からのバスの便は大変よくなりましたが、キャンパス内では、依然として坂道を歩かなければならぬので閉口します。とくに、神戸大学計算センターの主任をしていましたと、その用事で大学事務局や他の部局へ行くことがあります。そこで大学事務局や他の部局へ行くことがあり、ときには広いキャンパスの端から端まで歩かなければならないこともあります。そのときほど「坂のある大学」をうらめしく思うことはありません。

最近、この「坂のある大学」にも御多分に もれず大学紛争が起り、より良き新しい大学への脱皮のさなかにあります。近頃では、この学園紛争が高校にまで及ぶ気配をみせ、旧制中学以来の伝統ある学校として知られるような高校の名前も新聞紙上で散見するようになりました。

私のいる神戸大学は「坂のある大学」として有名です。私が本学に赴任してから、はや七年には年月が流れ、その間に阪急六甲からのバスの便は大変よくなりましたが、キャンパス内では、依然として坂道を歩かなければならぬので閉口します。とくに、神戸大学計算センターの主任をしていましたと、その用事で大学事務局や他の部局へ行くことがあります。

ところが、たまたま昨年夏、同じ五十五回生で、いま母校で教鞭をとつておられる岸達男君から「校内の理数科の研究会に一度加わらないか。林校長先生（三年生のとき代数を教わった思い出深い先生）にも了解を得ているから。」という話がありましたが、「林先生の前で話をするのは大変おこがましいが」とは思いながら、厚かましくも出かけて行つた次第です。

母校を訪れるのは二十数年ぶりのこととて、まず、校門の位置にまどつき、遂に道を行く中学生（生）のマークをつけていたと思ひますが）に聞く始末。やっと校内に入った

ものの、今度は職員室がどこやら、受付がどこやら勝手がわからず、またまだ、そばを通る生徒に場所を聞きました。すると、その生徒は非常に丁寧に、要領よく教えてくれたのです。そして、私はある意味でほっとしたのです。それは、その生徒の受け答えの中に、森田校長先生以下諸先生方の御指導を得て「古き良き時代」の中学生の仲間入りをしたわけです。爾来三十年を経過しましたが、その当時のことは、木造二階建の旧校舎とともに、未だ忘ることはできず、校門のあたりのたたずまい、講堂にかけられた校訓、諸先生方の顔とともに、いまもありありと目にうかべることができます。

私は毎日、塚口から六甲まで阪急電車を利する関係上、途中で幾多の高校の生徒諸君と接する機会がありますが、そのとき受けける感じと私たちがつた感じを受けたのです。あるいは、私自身の中に、先輩・後輩という親愛・協調があるとか）がいきいきと感じられたからです。

私は毎日、塚口から六甲まで阪急電車を利する関係上、途中で幾多の高校の生徒諸君と接する機会がありますが、そのとき受けける感じと私たちがつた感じを受けたのです。あるいは、私自身の中に、先輩・後輩という親愛感があつたのかもしれませんが、このようなことは、私のように各地の高校を卒業した学生諸君と接するものにとって、特定の高校出身者であるからといって、ある種の感じをいだくことは厳につつしまなければならないことです。したがって、いま話をしたようなことは、私が先輩であるからということで感じたとは思わないのです。

このように、校長先生はじめ諸先生方にお

会いする前に、じかに生徒諸君に接してみて、やはり母校には良い校風が脈々として受けがれていという安心感を得たわけです。

さて、校長室にお邪魔して、林校長先生に御挨拶申し上げ、岸・北沢・田村君ら同級生諸氏と懐旧の挨拶をしたあと、校内を見渡しますと、広いグランド、新しい校舎など、とのつた施設に目を見張るばかりで、わずかにグランド西側にある体育館が昔の姿を止めばかりで、近代的な高校になった母校にあらためて感銘をうけた次第です。とくに、白城会館の立派なこと、館内の食堂・図書館は、私の中学時代の賄い・図書室と比較し、隔世の感に打たれました。

私はここに大学紛争について理屈を述べよう

もちろん、その発端はいろいろですが、その一つに学内の教育環境・厚生施設の不備というようなことも挙げられると思います。また、このような身近な問題であるからこそ、当初大多数の学生諸君の支持も得られたと思います。しかも、問題の解決をめぐる大学当局の反応の遅さから、これに附隨するいろいろの問題、さらに大学制度の再検討という根

本的な問題にまで及んだと思います。

いま、母校西高を見るにつけ、私が学んだ三十年前とほぼ同数の生徒数を保ちながら、まったく新しいすぐれた環境のもとに学ぶ生徒諸君を見るにつけ、大学においてもこのよな環境のもとに研究と教育を維持しうる大學制度の確立の必要性が痛感されます。

西高は幸いにも林校長以下の有能な先生方の親切な御指導のもとに、良い伝統と新しい



私 の 死 亡 記 錄

三木 正（姫中五〇回）

信じ、葬式まで出していたのだから。

報（社内報）には、写真入りで私の死亡記事が出ていた。文化部（いまの芸術部）員の私が、北支戦線で戦死した旨、現地部隊から姫路市役所に公報があつたという記事に、六十行ばかりの先輩の追悼談がついている。
「までもなく、これは誤報である。それも無理はなかつた。私の実家でさえ、公報を出間違いです！」と断言したそだ。

立派な教育環境で次代の日本を背負う青年の教育が行なわれていますが、現在の大学の混乱をみるにつけ、母校の姿を思い出すことは一眼の清涼剤ともなります。このような立派な西高が、今後も年とともに、より新しい、良い高校として発展してゆくことを、かつてここに学んだ一人として願わざにはいられません。

私がサンデー毎日の編集長をしていた頃だから三年ほど前のことになる。白城会の東京支部総会が銀座の東急ホテルだつたかで開かれた。新聞記者をしていると、そういう会に出るタイミングがどうもうまく行かないものだが、その時は、めずらしく時間があつて私も顔を出した。

その会場で、私は昭和四十年度とある白城会名簿を買った。

私の名前は第五十回卒業生のところに出ていた。こういう書き方はちょっとキザなようだが、それには理由がある。私は旧制姫路中学に五年間在学したが卒業はしていないつまり、三年を二度やつて一もつとわかりやすくいえば、三年のときに落第して、四年から旧制姫路高校に進学したからである。

この話をすると、たいていの人がある、「ああ、病気かなにかで…」といってくれるのだが、そうではない。私はきわめて身体強健であつたし、無遅刻といいたいが遅刻は常習者だった一無欠席、これは文字通り一日も休んだことはなかつた。それでいて落第したのだから、これは正真正銘の落第だつた。

その落第生が四年から高等学校に合格したのである。これは全校を震撼するに足りる大

ニュースだった。「本校はじまつて以来の快挙」というわけで、それからしばらくは、ナマケ姫中生には、なにかというと「彼を見よ」と、私のことが引き合いに出されたそつである。

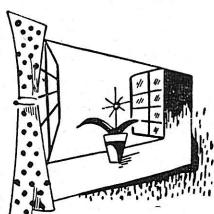
——懐しい思いにひたりながら、その夜遅くまで私は名簿をくつていた。二十数年ぶりに知る同窓生たちの消息である。あの頃のあの顔と、現在の職業を結びつけてみるだけでも興味はつきなかつた。

そのうちに、ふと、私は私たち五十回生の物故者が意外に多いのに気がついた。数えてみると七十八人もいる。前年の四十九回生――いうまでもなく、落第しなければ私の名前はここに出るはずだつた――みると、これは六十七人、四十八回生が六十八人、四十七回生六十七人と、昭和初期まではほぼ五、六十名である。ついでに私たちの後の年次をみると、一年あとの五十一回生が四十人、五十二回生が四十人。それが五十三回生になると、ぐつと減つて二十九人である。

物故者とあるから病死、事故死などすべてふくまれるが、なんといつても多いのは戦死、戦病死、戦災死である。私たち五十回生は昭和十四年卒、太平洋戦争のはじまつた昭

和十六年は、数え年二十一、二才であった。戦争の被害をいちばんひどく受けたのも当然であつたろう。

七十八人といえば、私たちの卒業生総数が二百二十一人だから、ざつと三分の一である。三人に一人が確実に死んでいるのである。私のように、生きているうちに死亡記事を書かれ、葬式を出されるだけで済んだのはむしろ幸運だつたというべきであろう。



西校生に望む

44年度入学式に
於ける祝辞より

蟹江俊一郎

(姫中五三回)

新入生の諸君、入学オメデトウ。諸君は本日より西高校生になられたわけですが、本日より始まる三年の春秋を大いに有意義に送つて下さい。そもそも学生の本分は勉強とスポーツであります。諸君は大いに学び、スポーツによって心身を鍛えて、たくましい日本の若者に成長して下さい。

今、諸君の晴れやかな、元気に満ちた顔を見てみると、私も本校に入学した當時のことが思い出されて、感無量なるものがあります。

私が本校に入学したのは昭和十二年。今から丁度三年前です。

当時の模様は諸君のお父さんやおじいさんから聞かれた方もあると思いますが、真っ黒な小倉の制服で、脚に白いキャバンをつけて通学して居りまもた。夏は真っ白な制服です。丁度、季節の移り変わるとときは上半身が黒、下半身が白がありました。諸君の言葉を

替りて言えば、いわゆるカッコイイスタイルで、よく女学生にもてたものです。

当時、本校は躊躇の厳しい学校でした。質実剛健、自治自重の校訓のもとに、びしひし鍛えられました。校内は勿論のこと、校外に於ても先生や上級生に会えば挙手の敬礼です。特に先生は停止敬礼です。もし、うっかり欠礼でもすれば、諸君の想像もつかないような雷が落下しました。勉強もこれに劣らぬシビアなもので、特に英語、数学には泣かされました。英語の時間など、級長が号令をかけて起立しているときに、先生の靴音がコツコツと廊下を近づいて来ると、思わず武者震いをしたもんです。

四年生の秋です。私のクラスは四年五組で、コの字型に曲った校舎の一端西端の二階で、日当りの良い一番居心地のよい教室でした。

それも英語の時間です。ふと外を見ると、セーラー服の一団が、前方一〇〇メートルの地点を金山より城北練兵場方面に北上しているではありませんか。私は窓側の席でした。思わずハンケチを振ったんです。ところが、敵もハンカチで応答するではありませんか。私はうれしくなって、最初は先生に見えない様に振っていましたが、興奮して大きく振りまし

行って立つと。「君。勉強してるのかい。しないのならやめたらいいんだよ。ここは義務教育じゃないんだ。」という様な調子でビシビシやらされました。

私は近年、しばしば海外へ旅行しますが、どこへ行っても語学には不自由しません（これは心臓も手伝っていますが…）。

特に英語の本場であるイギリスには、一番友人も多いし、先年ロンドンへ行った時はE M Iの社長に面会したんですが「君の英語は仲々うまい」と賞めてくれ、大いに御馳走してくれました。これみな本校でよくシンボラレたお蔭だと思っています。

さて諸君、愉快な話をしましよう。

四年生の秋です。私のクラスは四年五組で、コの字型に曲った校舎の一端西端の二階で、日当りの良い一番居心地のよい教室でした。

それも英語の時間です。ふと外を見ると、セーラー服の一団が、前方一〇〇メートルの地点を金山より城北練兵場方面に北上しているではありませんか。私は窓側の席でした。思わずハンケチを振ったんです。ところが、敵もハンカチで応答するではありませんか。私はうれしくなって、最初は先生に見えない様に振っていましたが、興奮して大きく振りまし

た。

その時分にはクラスの者も笑うし先生も気付きました。

「蟹江、なにしてるんだ。前へ出て来い。色気づいたや駄目じゃないか」とムチで私の頭をたたき始めました。当時の先生方は殆んどがムチを持って居られました。女性的な先生は細いムチを、男性的な先生は大きなムチを…。その英語の先生ハワイ生れの江っ子で木刀の小型のようなムチです。そして私の頭で調子をとりながら、詩の朗読を始めました。それが一時間半続いたんです。それはスチーヴンソンの別れを惜しむ詩でした。たしかれながら勉強したので今でもよく覚えています。

さすがの私もそれに参りました。時間が終ると早速逃げて帰りました。ところが、午前中ですでの家へ帰るわけにも行かず、男山で昼寝をして昼べんとうを食つて、時を見測らって何くわぬ顔で家路へ急ぎました。家に近づくにしたがつて不吉な予感におそわれました。格子戸を開けて家へ入ると予感は一層深刻なものとなりました。恐る恐る座敷へ上りました。当時は家へ帰ると「只今帰りました」と座敷に正座して両親に挨拶をしていた時代でした。

予感通り。そこには先生とオヤジが、今や連しと手ぐすね引いて待っていました。そこ

で二人にコテコテにしばられました。

あれ程往生したことはありません。当回想するのに、父兄と先生が共同戦線をはつて息子にスバルタ教育をしていたんだと思します。ところがです。その怖い先生が冬休みともなれば「オイ、スキに行かないか。」と言つて、当時、スキはあまりやりませんで、神鍋や鉢伏山に一週間も合宿に連れ行つて下さつたり。夏休みともなれば「オイ、キャンプに行こう。」と、しばしば日本海

を訪れたもんです。キャンプに行くときは、持てるだけのテントをリュックサックにつめて、両手にハンゴウやバケツを持って嬉々とかれながら勉強したので今でもよく覚えていきます。

さすがの私もそれは参りました。時間が終ると早速逃げて帰りました。ところが、午

前中ですでの家へ帰るわけにも行かず、男山で昼寝をして昼べんとうを食つて、時を見測らって何くわぬ顔で家路へ急ぎました。家に近づくにしたがつて不吉な予感におそわれました。格子戸を開けて家へ入ると予感は一層深刻なものとなりました。恐る恐る座敷へ上りました。当時は家へ帰ると「只今帰りました」と座敷に正座して両親に挨拶をしていた時代でした。



古きものと新しきものと

古田冷子（西高二回）

私が西高に入学いたしましたのは、昭和二年のことでした。「入学」と申しましても

実は「編入学」で、学制改革によって新制高校が誕生し、県立姫路高等女学校が県立姫路

ことかというと、夜遅く迄受験勉強している

眠むくて仕様がない—そういう時に「イヤ、アメリカの学生はもつと勉強しているか解らん。負けられない」と頑張ったし、スポーツに於ても私は剣道をやつていて、今でも時々あります。が、練習に練習を重ねて血ヘドをはきそくなる、そういう時でも「イヤ、ドイツの学生はもつとファンシングで練えているかも知れん。負けられない」と頑張ったもんです。

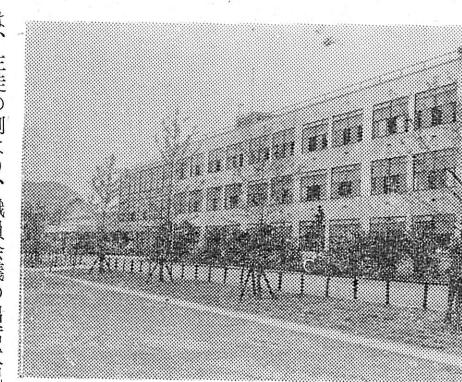
諸君もアメリカやドイツの学生に負けぬ様頑張つて下さい。そして本校を卒業される時分には、頭もいい、体もいい、加えるに広い視野を持つた心のゆたかな青年に成長して下さい。人すべからくコセコセした人間になつては駄目です。

それでは諸君、再び言います。
“西高入学オメデトウ” S・44・4・8

中学校と合体したために、女学校五年生中途で、高校三年生という名前になつたわけであります。その時、先生も生徒も「くじ引き」で折半せられ、片や西高、片や東高へと相別れていたのも、今思えば、奇妙な光景です。その当時は、女学校のままで卒業できたのですが、先生方が「勧誘」して言われるに「あとになって女学校卒だと」と、人から「お古いですねえ」と言われますよ」と、まことに巧妙に女性心理をついたお言葉にて、大量に高校三年生へと進学した、という昔話もあります。

さて、高校生にはなつたものの、何しろ急に新しい制度の中におくりこまれたわけですから、何かとちぐはぐで、とても男女相むつまじく語り合う、というようなわけにはいきません。とはいいうものの、そこは若い者同士、いろいろとエピソードやロマンスも誕生し、その中には、同級生同士で結婚された方もあります。

ただ、その頃の思い出としては、後のような受験戦争の圧迫も殆どなく、高校生活全般がのびのびしていたようだ感ぜられ、そうした時代に高校生活を送れたことをうれしく思っております。



は、生徒の側より、職員会議の出席状況などについてのアンケートが各先生にわたされたとか、ということですが、前の時代には考えられなかつたような事件で、私どもにはおどろきあきれると共に、一面では、最近の学生気質がありありと感ぜられ、かえてたのも

しかし、最近のように、生徒の側から高校生活を批判し、高校や大学生活の意味を問いつめる、といった趣はなく、その点、現在の学生のもつてゐる真剣さや活力に感服しております。

聞くところによると、京都の高校で

〇年も経てばようやくマンネリズムの気配を帯びてくるのも、人の世の常ですから、それを打ち破る声が青年の中から湧きおくるのも時勢の当然といわねばならぬと思つております。

やがて、今の青年も三〇年後の日には、古きものを打ちこわし、新しきものをうちたてた筈のものが、またマンネリズムにねむりこむ姿に当面しているかも知れません。しかし、その時には、またその時代の若者たちが新しい叫びをあげていることでしょう。

いかにおどろきあきれながらも、そのような未来の声に耳をふさぐことだけはしまい、と思つております。

現在の私の仕事は、ようやく二年間の司法修習生活を終え、弁護士の卵として歩み出しあばかりです。人間生活の複雑な諸相に、当面し始めている昨今、学ぶことのみ多い日々ですから、諸先生方や先輩、後輩の皆様方の御教えを得たいと思っております。

しいような氣もいたします。

大学と言わず、高校においても、今後ともさまざまの、今まで思いもしなかつたような事件がおこることと存じますが、敗戦直後、私達の時代に新鮮だった戦後民主主義も二



母 校

半 峰 肇

(姫中五十一回)

昨年の春のことだったと思う。

全く思いがけなく「中学同期のSだが、埼玉から京都へ医師会の旅行で来た。京都に一泊するが、二時間程時間があるので是非会いたい」という電話をもらった。そして、その夜八時過ぎ、洛北のはずれにある拙宅までわざわざ訪ねてくれた。

三十年振りである。お互いに白髪がふえ、四十も半ば過ぎた顔の上に、中学生当時の面影を重ねることは至難であった。

S君とは特別に親しかったわけではない。むしろ中学時代、余り交友のなかつた一人と健康と再会を祈つて別れた。しかし、お互いの記憶をさぐりながらこの突如として与えられた二時間の歓談は一体何であつたろうか。

Sと私は、中学時代、あの姫路の城北の

木造の校舎で、五年間共に学んだ、それだけの関係である。

その共通の思い出をもつたということ

が、音信のなかつた

二十余年を経た今日、忙しい団体旅行の暇をさいて、友を訪ね、懐旧の時を与えてくれたのである。

京都へ行けば旧友を訪ねよう。そして相手もきっと学生時代と同じようになつかしむであろうという、一見ドグマにも似た善意と信頼が私には嬉しかったのである。

現在紛争の大学は百校におよび、私はその渦中にいる。

長時間の団交で、学生が確認をせまる時、ふと「確認のいらない世界、お互いの信頼で結ばれる人間関係」にふと郷愁を感じることがある。

東大加藤総長は「大学は学問研究のための目的社会である」と明示した。しかし、目的集団であつても、共に一つのことを学ぶ、その過程において、人間的なつながりを否定することはできないと、私は思う。

科学技術の発展と合理化は、人間疎外を生

んだ。これは歴史的必然の産物である。しかし、合理化の歯車の中で、人間不在を実感として受けた時、人間相互の精神的つながり人間愛への限りない渴望を知るのである。

同じ学校で学んだというなつかしさが、三十年後に与えてくれた楽しさを味わいながら、若い後輩諸君が、どんな社会にあっても、信頼の上に築かれる心の交流を忘れないでほしいと願うのである。



支部だより

東京支部近況報告

△四十三年度支部総会を四十三年十一月八日、築地末広スカイグリルにて開催、出席者八十数名、姫路からも林義一氏（39回卒、現西高校長）と山崎為人氏（46回卒、現西高校教諭）が参加せられ、本部母校の九〇周年式典に因んで非常に盛会であった。

△本総会で支部長桑田時一郎氏（23回）が辞任せられ、後任支部長として石田久一氏（31回）が選出せられ、就任せられた。

△前支部長桑田時一郎氏は支部顧問としてひきつづきお世話願うことになった。

顧問は現在五名

栗山 重信（15回） 稲垣 敏澄（17回）

伊藤英三郎（18回） 大橋 房徳（18回）

桑田時一郎（23回）

支 部 長

石田 久市（31回）

幹事は現在三十五名

門脇 良教（35回） 足立良平（36回常任）

石川 準吉（36回） 黒田正二（38回常任）

姫中野球部 O B の集い

追記、その節会費の一部で母校野球部へボトルを贈呈しておきましたのでご出席の皆さん方へ紙面をお借りしてご報告に代えさせていただきます。

一、日 時・昭和四十四年五月十九日十七時
二、場 所・播磨

三、参加者

柴垣 武夫先生（34回）

水田弥太郎先生（27回）

芥田 武夫（33回） 竹島 義雄（37回）

竹田 助一（40回） 山本 英雄（41回）

先水 清（47回） 黒坂 良一（47回）

釣 常雄（48回） 長尾 俊郎（49回）

塙見 一郎（49回） 三木（山本）竜仁（50回）

中塚 靖雄（50回） 岸本 勝（51回）

西川 正美（51回） 計十六名。
山本 章（52回）



追記、その節会費の一部で母校野球部へボトルを贈呈しておきましたのでご出席の皆さん方へ紙面をお借りしてご報告に代えさせていただきます。

武田 誠吾 (38回)
宮田 時男 (41回) 田中 修 (42回常任)
長浜 正雄 (45回) 藤森 暢路 (47回)

南平 (51回常任) 萩野 総夫 (55回)
前田知克 (59回常任) 村田年弘 (61回常任)

間敏幸 (61回常任) 丸田鉄男 (西4回常任)
須鎗敏明 (西5回) 高島晴章 (西5回)

伊藤健一 (西6回) 的塙教介 (西7回)
江尻 紀 (西8回) 本間純三 (西8回)

今井信吾 (西9回) 岡田哲也 (西9回)
尾田鴻一郎 (西9回) 藤原俊隆 (西9回)

高橋 享 (西10回) 伊藤太郎 (西10回)
林 健一 (西12回) 寺尾栄裕 (西10回)

佐伯博道 (西11回) 富岡孝三郎 (西12回)
林 敏之 (西13回) 末広易則 (西13回)

島田 猛 (西14回) 以上

句に開催の予定

(四) 本年度総会は十月下旬または十一月上

昭和四十三年度白城会諸会計報告

(自昭和四十二年八月一日
至昭和四十三年八月十日)

日 (日) 母校の白城会館で開催され、約百三十名の会員が参集、空地理事長、井内前校長、横林教頭、吉田姫路市長、東京文部代表石川準吉氏等の挨拶祝辞等の後、議事に移り会務・会計の報告及承認等がなされました。なお

四十三年は母校姫路創立九十周年に当り、母校の記念行事に協賛の意を表わすことも議し、和やかな内に、議事を終了しました。引き続き、姫中31回卒竹内英夫氏の「ヨーロッパの言葉」の講演を録音テープと共に聴きまし

た。記念撮影後宴会です。例年ながら和氣蔼々の老若隣てのない、料理は質素でも飲料物は十二分の会費に勝る盛大な宴です。古き佳き囊——秀れた先輩——新たな酒——盛氣溢れる後輩——を注ぎ、私達の「白城会」が成長して行くことを祈念しつつ総会の報告にさせて頂きます。最後になりましたが本会のため

祝辞、祝電並びに協力を頂きました方々や母校の先生方に紙面をかりまして厚く御礼申しあげます。

(西岡記)

	一般会計	名簿会計	白城会館運営費	白城会館建設特別会計 (校舎改築後援会)
収入総額	二、一二九、四一七	三五九、八五八	一二三、六七八	八一四、五六六
支出総額	一、〇四〇、九七一	二二三、五七五	四五、八三七	一一一、七六五
現在額	一、〇八八、四四六	一三七、二八三	七六、八四一	七〇二、八〇一

右記監査の結果正當なものと認めます。

監査 岡本徳治郎 監査 龍田 謙三
以上の通り報告いたします。

理事長 空地純一

昭和四十三年度白城会総会報告

昭和四十三年度「白城会」総会は八月十八日 (日) 母校の白城会館で開催され、約百三十名の会員が参集、空地理事長、井内前校長、

横林教頭、吉田姫路市長、東京文部代表石川準吉氏等の挨拶祝辞等の後、議事に移り会務

・会計の報告及承認等がなされました。なお

四十三年は母校姫路創立九十周年に当り、母

校の記念行事に協賛の意を表わすことも議し、和やかな内に、議事を終了しました。引

続き、姫中31回卒竹内英夫氏の「ヨーロッパの言葉」の講演を録音テープと共に聴きまし

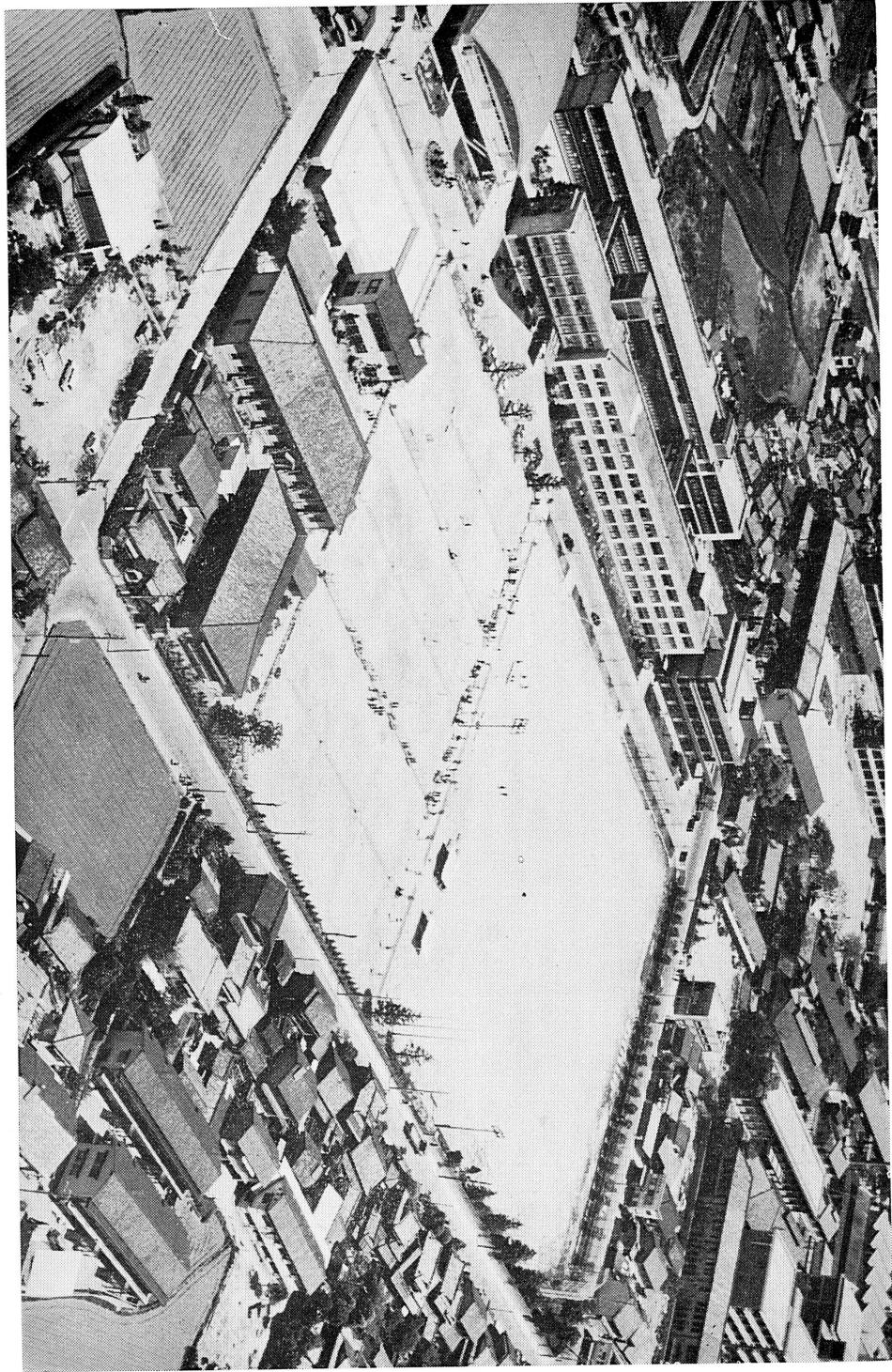
た。記念撮影後宴会です。例年ながら和氣蔼々の老若隣てのない、料理は質素でも飲料物は十二分の会費に勝る盛大な宴です。古き佳き囊——秀れた先輩——新たな酒——盛氣溢れる後輩——を注ぎ、私達の「白城会」が成長して行くことを祈念しつつ総会の報告にさせて頂きます。最後になりましたが本会のため

祝辞、祝電並びに協力を頂きました方々や母校の先生方に紙面をかりまして厚く御礼申しあげます。

(西岡記)

母校風景

提供 森本清吾氏 (姫中53回)



白城会総会ご案内

桂米朝氏を迎えて

昭和四十四年度総会を左記の通り行いますので、会員・特別会員各位、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようお願い致します。なお本年は、とくに楽しい集いに致したいと願い、桂米朝氏に来ていただき、お話ををしていただくことになつております。

なお準備の都合上、出席の有無を本通信折込みの葉書で、八月七日までにご連絡下さい。

記

日 時・八月十七日(日)

受付開始 午後三時より

総会 午後四時～六時

会場所 母校内白城会館(三階)

会費 七〇〇円

(但し西高十八回～二十一回
生は四〇〇円)

「維持会費」納入についてのお願い

現在本会の一般会計は、従来よりの積立金と、母校姫路西高校在校生が月々納入している入会金とをもって維持されており、同窓の本会員からは会費をいだいておりませんでした。ところが、

白城会通信の印刷、郵送料をはじめ諸費用上りのため、西高十七回卒以上の会員各会員から年額百円の維持会費をいたしました。

年納入していただくめんどうを省くため一応三ヵ年分をまとめて、金三百円ずつ三年毎に納入していただくようにしてお

ります。すでに納入いただいた方にも多数あります。未だの方は何かと出費ご多端の折、まことに恐縮ですが、事情ご了承の上、本会の発展、充実のため納入していただきますよう切にお願いいたします。同封の振替用紙でご送金願えれば幸です。

名簿改訂のお知らせ

本部では、名簿の改訂を予定し、その準備を始めております。つきましては、昭和四十年以後に、住所、氏名、職業の変更がありました方は本部までお知らせ下さい。

(編)(集)(後)(記)

過について賑かに報じている。先日、同窓生十数名とささやかな会合をもつたが、そこでも話は大学紛争問題に集中し、銀行員も会社重役も時計屋さん・機械屋さんも真剣に一家言ぶつた。そこにはなにか昔の中学校時代に戻ったような情感の交流があつた。

■ 大学紛争の投げかけた波紋は今除々に高校にも及んできている。たしかに現在の教育は教育現場の自律性だけで処理できない。背後の巨大な社会現実というものに対決している。そういう意味で現代の教師は理論と実践の両面において高い人格性を強く要求されている。

■ 「白城会通信」第六号はこうしたあわただしい学校業務の間隙を縫つて産み出された。例年のことながらあまり変わりばえのないお粗末なもので恥ずかしい次第ですが、少しでも読み甲斐のあるものにしたいといふ達の願いを汲みとつて頂ければ幸いです。

No.6 昭和44年7月

題字は空地純一氏

白城会本部

姫路市伊伝居78
(郵便番号670)

姫路西高等学校内
理事長 空地純一
編集人 橋 義康
鳩川晏弘
家永善文

印刷所
明輝堂印刷
姫路市総社本町81